

女性研究者を育てよう！

Proposal for Women's Researcher

衛藤義勝 Yoshikatsu ETO

男女参画法案が通り久しい。しかし我が国の国立大学での女性研究者は未だに11%とその数は増えず、我が国の女性研究者は欧米と比較してかなり少ない。非常に優秀な人が研究者として大学、研究所で残れない要因は何か？ 欧米ばかりでなく中国、台湾、フィリピンなどの東南アジアでも女性医師、研究者、政治家など社会で活躍している女性は我が国と比較して断然多い。

私は日本小児科学会の会長（理事長）を7年前から4年間させて頂いた期間に、小児科医が不足している要因に女性医師が現場で働けないのも大きな原因であると痛感し、学会内に、女性医師の働ける環境整備プロジェクトチームを設立した。当時としては、女性医師の問題をいち早く取り上げた学会である。

現在多くの団体、会社、国の行政府が女性を社会で働けるように試みているが、その効果は少しずつ出ているが、まだ十分でない。先日も女性上級国家公務員を30%増やす計画を発表している。日本小児科学会での女性小児科医は会員約19500名の内36%であるが、現場での救急医療や病院で働いている女性医師は少ない。その原因として、子育て期間中での支援策が不十分と、労働環境が苛酷な点が挙げられる。このような環境を是正するために日本小児科学会は以下の政策を提言した。
①男性医師、あるいは同僚女性医師とのワークシェアリング体制を各病院は整備する②病院での妊娠、出産時、育児期間での代替医師制度の導入③保育所での入所基準の緩和④男性医師、とくに病院管理者への啓蒙活動⑤女性医師への社会的責任を果たすことができるために女性医師の管理者への登用を増やす。大学などでは女性スタッフ、教授等を増やす。⑥社会での理解—マスメディアを通じての活動 ⑦女性自身も意識改革が必要など多くの提言をし、以前より随分意識改革の芽が出てきている。

女性研究者の育成も同様であり、女性は研究分野でも活躍できるチャンスが多い。女性の忍耐性、緻密さ、丁寧さ、など研究分野できわめて重要である。女性を活用するために女性研究者の将来への展望が開けるアカデミックトラックが必要である。其れには国立、私立の研究機関での基礎研究者の定員を増やす必要がある。また競争原理に基いたポジションの確保が必要である。女性研究者もまた研究者として身を立てる自覚が重要であ

り、女性自身の意識改革、制度改革も必要である。米国の大学では女性教授が学部によっても異なるがおおむね30%前後はおり、男性研究者以上に活躍している研究者や教授も沢山いる。しかし我が国では国立大学での女性教授数は数パーセントに過ぎない。ちなみに全国医学部90大学の小児科教授のうち女性主任教授はわずか2名である。日本内科学会の理事は20数名中女性ゼロであり、日本小児科学会でも女性理事は20名中1名である。もう一つの我が国の問題は保育体制の未整備である。

現在保育所不足で待機児童数は2万人もいる。潜在的に保育所を必要とする人はこの数の数倍はいる。やむをえず、自宅待機でいる能力のある母親も多い。我が国の幼稚園を含めた保育環境の整備を早急に整備することが重要である。単に保育所を増やせばよい問題ではない。広い視点で社会が子供を心身ともに健全に育てる環境が日本では不足している。北欧などのように子供に優しい環境整備がきわめて重要である。すなわち子育てでの自然環境、安全な環境、スタッフの整備、保育者の教育体制の整備、子育てに適切な保育施設の整備など多くの問題がある。狭い保育所に押し詰めて、唯事故がないように檻に入れられたような環境で育てられている保育所もある。子育ての施設環境は将来の素晴らしい人間を育てるために重要である。同時に優れた保育士の育成のための制度改革も必要である。働いている母親が安心して預けられる保育環境の整備を是非政治課題の重要政策として取り上げてほしい。引いてはこのことが、女性医師、研究者を含め女性が職場で安心して働ける最低条件であることを行政府、立法府の担当者は認識し、具体的行動を起こして実行に移すことが重要である。最後に我が国は女性が社会で働くことが、まだ社会的に十分に認知されていない。とくに女性が上司となることの抵抗感がまだある。女性への偏見は儒教的、歴史的な要因でもある。女性が職場で気持ちよく働けるには男性の偏見を除くことも必要である。また一方では日本の女性の意識改革も重要である。母であり、妻であることは大変であるが、社会で活躍していく意識を強くもつことが重要である。女性研究者、医師など多くの職種で女性が働ける環境を是非育てていくことが少子化の時代、重要な我が国の政治課題である。



衛藤義勝 Yoshikatsu ETO

東京慈恵会医科大学遺伝病研究講座
教授、前日本小児科学会理事長